

## NACISIS-CATオンライン負荷テスト御協力へのお礼

4月25日、5月23日、6月27日の3回、NACISIS-CATオンライン負荷テストを実施しました。参加館の皆様にはお忙しいところ、多数の御協力をいただきありがとうございました。

センターでは、目録所在情報データベースのサーバマシンへの移行を平成8年8月を目標に、システムの改造を行い、機能評価、性能評価等を重ねて参りました。今回の負荷テストでは、特に大規模ユーザ利用時におけるシステムの性能評価が主な目的でした。テストの結果種々の問題が明らかになり、本番サービス開始に向け、現在その対策を行っているところです。

なお、今後も数回の負荷テストを計画しております。詳細が決まりましたら改めて御案内しますので、御協力よろしくお願いいたします。

## トランザクションファイルの廃止に伴う変更

目録所在情報データベースのサーバ移行については、オンライン・システムニュースレターNo. 54でお知らせしました。そこで述べているように、移行後、データベースは即時更新されるようになり、現在行っているトランザクションファイルによる時差更新は廃止されます。それに伴い以下の変更が生じます。

### 1. 全ての検索用インデクスの即時作成

レコードが登録された時点で全ての検索用インデクスが作成されます。これにより、従来のような一部のインデクスしか作成されないトランザクションファイルを意識した検索をする必要がなくなります。

### 2. 同一IDレコードの複数存在の廃止

従来、書誌を修正した場合及び所蔵を修正・削除した場合、当日中はマスタファイルとトランザクションファイルに同一のIDを有するレコードが存在し、簡略表示の際、同じIDを有するレコードが複数表示されていました。トランザクションファイルの廃止により、同一のIDを有するレコードが複数存在することがなくなり、簡略表示において同一のIDを有するレコードが複数表示されることはなくなります。

### 3. RECONファイルレコードの修正

RECONファイルのレコードを修正した場合は、即座に修正されたレコードがCURRENTファイルに登録され、同時にRECONファイル中の当該レコードが削除されます。

## 学術雑誌総合目録和文編 1996 の編集状況

平成7年11月1日から平成8年3月29日までを調査期間として、学術雑誌総合目録和文編の全国調査を行いました。現在、各参加機関から提出いただいたデータの入力は、ほぼ完了しております。あらためて、この調査に御協力いただいた参加館の皆様にお礼申し上げます。

### 1. 和文編のためのオンライン入力

データシート等の提出物の締切は3月29日でしたが、オンラインでの書誌・所蔵データの入力は引き続き行っていただいて結構です。入力にあたっては、次の点に注意してください。

1. 10月時点のデータをもって冊子体を作成する予定ですが、センター側でのデータ整備作業の都合上、8月中を目処に入力作業を完了してください。
2. 確認作業を迅速に行うため、書誌データや変遷データに関わる情報源コピーは、早めに送付して下さい。
3. 編集完了まで、各参加館で書誌の「削除予定レコード」は作成しないで下さい。
4. 磁気テープで報告した参加館には、センターからデータロード完了の通知をしますので、その通知後、入力作業を行ってください。

3,4の詳細については、「オンラインニュースレターNo. 53」を参照して下さい。

### 2. データ提出状況

6月10日現在のデータの提出状況は、以下のとおりです。

#### (1) 参加機関数

\* 複数回答あり

書誌データ	オンライン入力	331 機関 ( 557 参加組織 )
	CD-ROMシステム	130 機関 ( 136 参加組織 )
	データシート	357 機関 ( 427 参加組織 )
所蔵データ	オンライン入力	295 機関 ( 439 参加組織 )
	磁気テープ	49 機関 ( 130 参加組織 )
	CD-ROMシステム	128 機関 ( 134 参加組織 )
	所蔵更新用リスト	351 機関 ( 421 参加組織 )

(2) 提出データ件数 (単位: 件数)

		磁気テープ	CD-ROMシステム	データシート	合計
書誌	新規	-	649	1,825	2,474
	修正	-	432	680	1,112
所蔵	新規	43,783	39,389	74,541	157,713
	修正	253,046	80,117	154,054	487,217
	削除	14,165	5,716	26,831	46,712
変遷報告		-	-	715	715

(3) オンライン入力件数 (単位: 件数)

		'95.11	12	'96. 1	2	3	4	5	合計
書誌	新規	363	189	388	516	414	350	610	2,830
	修正	2,938	1,747	1,554	2,177	2,205	2,351	1,530	14,502
所蔵	新規	7,614	14,217	16,386	17,021	20,214	14,237	11,342	101,031
	修正	25,635	27,081	47,908	58,388	70,492	29,651	17,013	276,168
	削除	1,269	1,852	4,437	5,633	5,104	2,130	2,067	22,492

\* 修正件数は修正回数の延べ件数であり、純レコード数ではない。

3. 今後の予定

(1) 書誌データの確認調査

編集を進める中で、各参加館に対して個別に書誌データの確認調査をお願いする場合があります。センターから情報源コピーの提供等の依頼がありましたら、お忙しいところ申し訳ありませんが、御協力をよろしくお願いいたします。

(2) サービス窓口の調査

最新の情報を反映した冊子体を作成するため、各参加館のサービス窓口に関する調査を行います。平成8年8月～9月頃を予定しておりますので、その際は御協力お願いいたします。

## I L LシステムからのN D L外部依頼機能の注意点

I L LシステムからN D L（国立国会図書館）に依頼する場合の留意事項、及び「I L L操作マニュアル第3版」発行後、新たに生じた注意点についてお知らせします。

### 1. 依頼の仕組み

#### 1. 電子メールによるデータのやりとり

N D Lとのデータのやりとりは、全て電子メールで行われています。

A M L I DにN D Lがセットされた「未処理」及び「回答待」状態のレコードをもとに、一定時間毎にN D L宛「依頼メール」を作成し送信します。この処理が行われるとレコードの状態は「外部依頼中」へ移行し、履歴に「D I S P L A Y N D L」と記録されます。

N D Lに「依頼メール」が届くと、その都度、N D Lの受理番号が記入された「受理メール」がN D LからI L Lシステムに送られてきます。I L Lシステムは、その受理番号を当該レコードのA N Oフィールドに転記します。

受理番号は、N D L側で「依頼メール」を受信する度に新たに振られ、それをI L Lシステム上では「受理メール」が届く度にA N Oフィールドに上書きします。

そのため、A N S W E Rコマンドを発行する前と後とでは、当該I L LレコードのA N Oフィールドにセットされている受理番号が異なりますが、N D Lへの問い合わせは常に最新の受理番号で行ってください。

また、書誌事項の不備等により依頼が受理されなかった場合、あるいは謝絶となった場合は、それぞれの理由を付された「却下メール」「謝絶メール」がN D Lから送られてきます。I L Lシステムでは、これらのメールを受信すると、当該レコードの状態を「外部依頼中」から「新着照会」へ移行させ、履歴にはN D Lからの理由と「I N Q U I R E N D L」とを記録します。謝絶の場合でも「P A R D O N」とは記録されません。

N D Lから謝絶された後、更にB L D S Cへ転送する場合は、当該I L Lレコードの転送対象フィールド（下の画面例の下線部分）に転送できない文字種（「I L L操作マニュアル第3版」p. 170参照）がないか確認の上、F O R W A R Dコマンドを発行してください。

#### 09 複写依頼詳細表示

>:FORWORD

```
照会      OMLNM:学情セ OMLID:FA016285
ACCT:pb   TYPE:電子複写  ONO:1     ANO:ECxxxxxx
BIB:Journal of ....
VLNO:89(7) PAGE:120-132  YEAR:1993
ARTCL:George. X "YYYYY"
HMLID:NDL  HMLNM:NDL   LOC:  VOL:  CLN:Z00-XXX
HMLID:BLDSSC HMLNM:BLDSC LOC:  VOL:  CLN:
BVRFY:      HVRFY:NACISIS-CAT
```

CLNT:相互華子 CLNTP:研究開発部教授  
ODATE:19960614 ADATE: RDATE:  
[19960616.10:31:26・INQUIRE NDL 現在製本中です。]  
[19960616.16:20:55 DISPLAY FA016285 ]  
CMMNT: ←必要ならばコードを入力

履歴には「INQUIRE」と記録されていますが、ANSWERコマンドは発行しないでください。NDLへ回答しても、NDL側ではBLDSCへ転送することはできません。誤ってANSWERコマンドを発行してしまった場合は、すぐにCALLBACKコマンドでレコードの状態を「外部依頼中」に戻して下さい。

## 2. NDL宛て「依頼メール」

1つの依頼レコードから1通の「依頼メール」が以下のように作成され、NDLへ送られます。

### NACISIS-IILL依頼レコード

09

複写依頼詳細表示

>:ORDER

準備中 OMLNM:学情セ OMLID:FA016285  
ACCT:pb TYPE:電子複写 ONO:1 ANO:  
BIB:かんきょう / 環境庁=編集協力.(ISSN=03854477)  
VLNO:1995年5月号 PAGE:6-9 YEAR:1995  
ARTCL:内藤裕子 "子どもたちの環境学習を助ける地域社会のコミュニケーション"  
HMLID:NDL HMLNM:NDL LOC: VOL: CLN:Z16-960  
BVRFY: HVRFY:NACISIS-CAT  
CLNT:相互華子 CLNTP:研究開発部教授  
ITEM: QNT: UPRCE: CHRG:  
FEE: POSTG: SUM:  
ODATE:19960611 ADATE: SDATE: DDATE:  
CMMNT:よろしくお願ひします。  
OSTAF:学術太郎 相互協力係  
OADRS:〒112 東京都文京区大塚.. 学術情報報センター

↓

### NDLへの「依頼メール」

09

subject:ill order to ndl

ORDER

SERVICE = copy ←複写(copy)/貸借(loan)別に自動セット  
LIBCODE = XXXXXXXX ←"OMLID"を元に参加組織ファイルから転記する  
LIB = 学術太郎 ←"OSTAF"から(\*注1)  
TITLE = かんきょう / 環境庁=編集協力 ←"BIB"から  
AUTHOR = ←空白のまま  
ARTCL = 内藤裕子,"子どもたちの環境学習を助ける地域... ←"ARTCL"から  
VLNO = 1995年5月号 ←"VLNO"から  
PAGE = 6-9 ←"PAGE"から  
YEAR = 1995 ←"YEAR"から  
CL = Z16-960 ←"CLN"から  
VRFY = ←"BVRFY"から  
ONO = LA0234567890 ←LA番号が転記される  
ACCT = pb ←"ACCT"から  
MEDIA = copy ←"TYPE"から(\*注2)  
USER = 相互華子 ←"CLNCT"から  
USAGE = 調査研究のため ←自動セット  
NOTE = よろしくお願ひします。 ←"CMMNT"から

(注1) 依頼館の連絡先等は、別途NDLで管理されていますので、ここには担当者名が転記されます。

(注2) TYPEが「電子複写」の場合は、自動的に"copy"と転記されます。

## 2. NDL依頼時の注意点

N D Lへの依頼時の注意につきましては、「I L L操作マニュアル第3版」P. 152～156・160、及び「オンラインニュース」で既にお伝えしていますが、更に以下の事項を追加します。

1. I L Lシステム参加館への依頼優先

参加館同士の相互協力が原則ですので、依頼先選定の際にはI L Lシステム参加館を優先し、それで充足できない場合のみN D Lへ依頼してください。

2. 事前調査

事前にN D Lの所蔵を確認した上でN A C S I S - C A T, J P - M A R C, I Rデータベース等を必ず検索し、出来る限りN D Lの請求記号を記入して申し込んでください。請求記号が未記入の場合は、N D Lで調査を行うことになり、処理に相当の時間と手間がかかります。

調査のため、出典その他の参考事項もできるだけ詳しく記入してください。

3. C L N T (申込者名)

著作権法上必要ですから、必ずC L N Tに申込者名を記入してください。

4. T Y P E (複写形態)

「I L L操作マニュアル第3版」(P. 155)には、指定できるT Y P E (複写形態)は、"c o p y", "c o l o r", "m i c r o"の3形態のみとなっておりますが、次の形態を追加してください。

**o t h e r** ... **その他の複写** (希望する複写形態をC M M N Tに記入する)

5. 資料到着後の処理

N D Lから依頼資料が届いたら、当該I L Lレコードを「外部依頼中」から検索し料金等を入力の上「確認」(複写依頼の場合)または「借用中」(貸借依頼の場合)に状態を移行してください(N D LからS E N Dコマンドは発行されません)。

なお、依頼館でO Kコマンド、S E N D B A C Kコマンドを発行されても、そのレコードはN D Lへは送られません。したがって、N D Lへの謝辞等をC M M N Tに入力してもN D Lへは伝わりません。

6. 履歴

前述「1-1」の通り、I L LシステムとN D Lとの間のデータのやりとりは全て電子メールで行っています。N D LがI L Lシステムに参加して直接コマンドを発行してレコードの状態を変化させているのではありません。

履歴についても、電子メールの送受信にあわせてI L Lシステム側で記入していますので、「D I S P L A Y N D L」とあってもN D Lがそのレコードを詳細表示させたことを意味するものではありませんので、ご注意ください。その他のコマンド履歴についても同様です。

7. 名称・連絡先等の変更

自館の名称・住所・電話番号等に変更が生じた場合は、早急にN D L (図書館サービス係：FAX 03-3581-0989)にF A Xで連絡してください。

### 3. 「I L L操作に関する質問書」から

#### 1. 会計事項を入力する際、「包装料」等はどこに入力すればよいのか？

N D Lから依頼資料が到着したら、前述「2-5」の通り、依頼館にて会計事項を入力しなければなりません。入力したデータはN D Lへは送られません。迷うような内訳については独自にルールを決めてI L Lレコードに入力して下さい。

一例としては、複写料金、送料以外の諸経費はすべて「F E E（基本料）フィールド」にまとめて入力し、内訳は「O L D F（依頼館ローカルデータ）フィールド」に入力する方法があります。

#### 2. 貸借依頼の場合で、D D A T E（返却期限）を入力せずにB O R R O Wコマンドを発行したら、レコードからD D A T Eフィールドが消えてしまった。どうすれば良いのか？

C A L L B A C Kコマンドを発行して、レコードの状態を「借用中」から「外部依頼中」に戻してください。再びD D A T Eフィールドが表示されます。

外部依頼時には、例外的に依頼館によるD D A T Eの入力ができますが、それは「外部依頼中」状態に限ります。「外部依頼中」の時に入力せずにB O R R O Wコマンドを発行すると、状態移行後のレコードではD D A T Eは表示されません。必ずD D A T Eの入力を確認の上、B O R R O Wコマンドを発行するようにして下さい。

### 4. その他

N D Lへの外部依頼機能が開始されて2か月余りが経ちますが、まだまだシステムの安定していない部分があります。そのため、処理が遅れる、依頼レコードのやりとりに不具合が発生する等、依頼館の方々にはご迷惑をおかけすることがありますが、御理解・御協力をお願いいたします。

N D L依頼機能に関する御質問等は、目録情報課相互協力係までお願いします。



## 海外への文献提供サービスについて

今後、日本から海外への学術情報提供を積極的に推進するためには、諸外国からの学術文献依頼の受付、文献入手と提供、会計処理等の機能を持つ統一的窓口を国内に設ける必要があります。そこで、技術的な課題に加え、制度的な課題等、解決していかなければならない問題はまだまだ残っていますが、まずはその第一歩として、今まで、国際日本文化研究センターが窓口となってきた英国のケンブリッジ大学図書館、オックスフォード大学図書館からの日本国内の図書館に対する文献複写依頼業務を、平成8年度より、学術情報センターで行うことになりました。

つきましては、学術情報センター目録情報課からNACSIS-ILL参加館へ文献複写依頼をさせていただきますので、御協力の程よろしくお願いいたします。

なお、学術情報センターは、現段階では国立大学間の料金相殺制度には加入していないため、納入告知書等による決済とさせていただきますことを御了承ください。

また、今後の進展につきましては、随時「オンライン・システムニュースレター」「センターニュース」等で御報告いたします。

## 「削除予定レコード」の報告不要について（図書）

これまで、「削除予定レコード」を作成した場合はセンターに御報告いただいておりますが、今後は事務の煩雑を避けるため、報告を行わなくてもよいこととします。

実際のレコードの削除の前に、所蔵レコード、子書誌レコードのリンクの有無を確認し、誤ったレコードの「削除予定レコード」化を防止するためにお送りいただいておりますが、殆どの御報告は問題がないことと、リンクの有無については処理の直前にプログラムでチェックすることが出来るため、連絡は不要とするものです。

なお、雑誌はこれまで通り報告が必要ですので、御注意ください。

## 書誌調整の記事の見方

新規の参加館の中には、ニュースレターに掲載されている書誌調整のページに対する誤解が少なくありませんので、あらためてその役割と見方を解説いたします。

### ■役割

総合目録データベース中にある重複書誌の統合にあたって、機械的に統合できないものについて掲載し、各参加館に所蔵レコードの付替等の処理を連絡するためのものです。また、重複以外にも、修正指針に従って修正されたレコードについて、所蔵館が多数の場合には記事中でお知らせしています。ほぼ毎号掲載されますので、参加館の担当の方は自館の所蔵レコードが付替の対象になっていないか、所蔵を登録している書誌に修正がなかったかを確認する必要があります。連絡があった場合は、速やかに処理をお願いいたします。

### ■表の見方

まず、参加組織毎（FA番号毎）に、調整番号がまとめてありますので、該当する項目をあのページから探します。

例) 参加組織番号がFA001277の図書館の場合

FA番号            書誌調整番号  
FA001277        55-01, 55-03, 55-58, 55-76, 55-77

\* まず調整番号55-01について。  
書誌調整番号が55-01の項目を探して内容を確認する。他の番号も同様。

書誌調整 番号	所蔵削除側 書誌ID	所蔵付替先 書誌ID		タイトル 事由		巻次 部編等
55-01	BN0186132X	BN14076469		日本文学研究必携		1刷

上記の例では、BN0186132Xに所蔵を登録している所蔵館のうち、「1刷」を所蔵している館がBN14076469に所蔵を付替える必要があります。自館の所蔵が別の刷のものならば処理は必要ありません。「1刷」の箇所は、「第1巻」、「pbk」等の指示の場合もあります。その場合も、付替えの処理が必要なのは、「第1巻」、「pbk」を所蔵している参加館のみです。「所蔵削除側書誌」に所蔵を登録している参加館すべてを連絡の対象としていますが、指示された「巻次・部編等」以外を所蔵している場合は処理の必要はありません。